

平成 28 年度滋賀県立甲西高等学校学校評価 分析と改善策

1 学習指導

○「授業の方法や内容を改善し、生徒に分かる授業を行っている。」

この項目での教職員の肯定的評価は 97.4%。保護者の「学校はわかりやすい授業を行っている」で 73.1%。これに対して生徒は「生徒が興味関心を持つような授業が行われている。」で 42.3%、「授業はわかりやすく、丁寧に行われている。」で 60.5%と肯定的評価は低かった。

○「家庭での学習習慣を身につけさせる工夫をしている。」

この項目での教職員の肯定的評価は 79.9%。保護者の「学校は子どもが家庭学習できるよう課題等を出している。」で 82.5%。これに対して生徒は「ふだんから学習計画を立てて勉強している。」で 32.9%、「授業の予習復習のため家庭学習をしている。」で 38.6%と肯定的評価は著しく低かった。

昨年と同様に教職員は適切な指導をしている自覚があるが、実際には生徒と保護者の受け止めと大きな乖離があることが数値から明らかになった。教職員の指導が生徒の主体的な学びの成果として反映されていないことを謙虚に反省し、さらに授業改善を進め、魅力的な授業づくりに取り組んでいく必要がある。

本校は、平成 25～27 年度の 3 年間「学力向上・評価研究」に係る県の研究指定を受け、これを契機に、「教師が『教える』授業から、生徒が『学ぶ』授業へ」、「生徒が主体的・意欲的に学べるような学習環境」をコンセプトに、すべての教職員が授業改善に取り組んできた。取組の結果、この 3 年間で研究授業も頻繁に実施され、明らかに教職員の意識は変わってきている。しかし、アンケートの結果からは、授業改善の取り組みがまだまだ不十分であることがうかがえる。

今後も、そのスタンスを変えることなく、継続して授業改善に取り組み、「生徒が主体的に安心して学べる授業」を目指し、生徒の学習意欲を引き出す努力を続けていく必要がある。

また、家庭学習については、現在の課題提出が家庭学習の定着に結びついていない。効果的な課題の出し方や量のバランスを見直すとともに、生徒の自主的な学習意欲を高める方法も模索したい。定期的に生徒アンケートを実施し、家庭学習の実態把握に努めるとともに原因究明に努めたい。

9 環境学習

○「日常的な清掃指導を通して美化意識を高めるとともに、教科指導等で環境保全に対する意識の啓発に努めている。」

この項目については、生徒の肯定的評価が一様に低いですが、昨年度より高くなった。地道な取り組みに対する理解がやや進んだようである。今後も下記の通り、取り組みを進めていきたい。

教職員に環境教育を授業の中で十分実施できていないという自覚があることは否めない。一方、学んだ中のどの部分が環境教育なのかを理解できていない生徒が相当数いることも予想される。

今後も、日常の授業において郷土の環境に関わる教材に触れるたびに、教職員が適宜生徒に環境美化についての意識啓発に努めることで、生徒に環境保全の大切さの理解に努めたい。

11 その他学校の取組

○「学校生活の情報を生徒・保護者に提供して、家庭との連携を図っている。」

保護者の「学校は保護者との連絡を密にしてくれるので安心して任せられる。」の肯定的評価は 60.0%と昨年より、4.9%の低下となった。こまめに保護者との連携を図っていくとともに、保護者が気軽に担任に相談できる環境作りも必要である。

また、生徒の「学校からの配布プリント、学年通信、PTA 広報などを保護者に見せている。」も肯定的評価 67.5%にとどまっており、約 3 割の生徒は配布物を保護者に見せていないのが実情である。

○「学校はホームページ・広報・通信等で学校の様子をよく発信している。」

学校ホームページについては、担当者の交代もあり更新に手間取ったため、情報発信がうまくできなかった。評価も、昨年の 76.9%から 65.1%と大きく低下した。地域や保護者に信頼される学校づくりのためにも、WEB ページや通信等での情報発信は重要であり、次年度に向け改善したい。

また、生徒に対しては、学校からの配付物は必ず保護者に見せるよう繰り返し指導するとともに、保護者にも PTA 総会や進路説明会等で、配布物の確認をするようお願いし、学校情報の確実な伝達に努めていきたい。